

<p style="text-align: center;"><b>知的自由理念の沿革と現代的意義 1</b></p> <p style="text-align: center;">《2015 年度以前入学生は、メディアと知的自由 I 》</p> <p style="text-align: center;">History and Present Significance of Intellectual Freedom #1</p>	<p>(教員名) ＜山本 順一＞</p>	
<p>知識情報基盤研究分野 探究科目</p>	<p>講義科目</p>	<p>選択</p>
	<p>1 単位</p>	<p>2017 年度・前期集中</p>
<p><b>I 科目の主題</b></p> <p>欧米社会が近代に入り、公権力の民主主義的統制と基本的人権思想が普及してゆきます。検閲を排してあらゆる情報や思想にアクセスでき（知る権利）、市民が自己実現と社会の進展のために働きかけること（表現の自由）を許容、推進する理念があらわれ、そのひとつが 1930 年代のアメリカの図書館界に生成した‘知的自由’（intellectual freedom）です。それが敗戦国日本に 1950 年代に承継され、‘図書館の自由’となります。この科目は、主として知的自由理念の構造と沿革について学びます。</p>		
<p><b>II 授業の到達目標</b></p> <p>民主主義社会の根幹的理念のひとつに育ってゆく‘知的自由’理念の生誕、成長、展開のプロセスを理解し、その社会思想的機能発揮の意義と可能性について一定の認識をもつことをこの授業の目標とします。</p>		
<p><b>III 授業内容・授業計画</b></p> <p>関連する事件の発生、トピックの出来<sup>しゅつたい</sup>によって変更することがありますが、一応の授業計画を示します。この授業は、主として演習形式で行います。</p> <p>第 1 回～第 3 回 一般的な‘知的自由’理念の沿革・展開、構造についての概説。</p> <p>第 4 回～第 6 回 アメリカにおける‘知的自由’理念の生成と規範構造の変化。</p> <p>第 7 回～第 9 回 日本における‘知的自由’理念の承継と‘図書館の自由’の独自の展開。</p> <p>第 10 回～第 12 回 ‘知的自由’理念の国際的展開と現状。</p> <p>第 13 回～第 15 回 まとめ：‘知的自由’理念の構造変化の余地と発展可能性</p>		
<p><b>IV 事前・事後の学習内容</b></p> <p>集中講義の開始に先立ち関係資料を配布しますので、事前に学習しておくこと。また、事後には授業で学んだことを復習しつつレポート作成にあたること。</p>		
<p><b>V 評価方法</b></p> <p>授業終了後、所定の期日までに提出されたレポートにより評価するものとしますが、授業中の発言、履修態度などもあわせて総合的に評価します。</p>		
<p><b>VI 受講生へのコメント</b></p> <p>事前に取り上げる資料を学習したうえで授業に参加し、授業ではそれぞれの経験を踏まえて自分の所見をしっかりと述べ、議論をたたかわせるよう努めてほしい。</p>		
<p><b>VII 教材</b></p> <p>集中講義の開始に先立ち関係資料を配布します。</p>		